

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕

【評価実施概要】

事業所番号	4571800194
法人名	医療法人 豊寿会
事業所名	グループホーム皇子原
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173-3 (電 話) 0984-42-2000

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年5月26日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 19 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	800 円	その他の経費(月額)	6,000~6,200円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 4 名	女性 23 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	11 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	1 名
年齢 平均	88 歳	最低 78 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川井田医院、益山歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、同一法人系列の医院やデイケアサービスと同敷地内に在り、3ユニットがそれぞれ1戸建てになっている。職員は4か月毎に各ユニットへの異動があるので、全職員が各ユニットの利用者と顔馴染の関係をつくっている。併設のデイケアサービスと合同での催しで行われるバザーの益金は利用者の娯楽費に利用している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域住民との交流については、中学生の体験学習の受け入れやボランティアの訪問などで改善されている。更に自治会への加入促進等に取り組んでほしい。又、職員研修参加への配慮、利用者と職員と一緒に食事を楽しめる環境づくり、外出支援、災害時の地域住民の協力体制など今後の取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義とねらいについて、全職員を交えての話し合いや自己評価の取り組みが十分でなかった。全職員での話し合いや自己評価の積極的な取り組みをお願いしたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーからの意見や要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。家族にもメンバーとして参加してもらえるよう働きかけている。サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みや会議のメンバーに自治会関係者参加の働きかけも期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には必ず声をかけ、出された意見や苦情に対しては、課題を検討し、質の向上を目指す取り組みをしている。家族等が意見や苦情を安心して表せる機会の場としての家族会の設置も期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣からの野菜の差し入れや中学生の体験学習の受入、ボランティアの来訪など地域との交流がある。地域住民の一員として町会、自治会などに加入するなど更なる積極的な取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げているが、地域密着型へ移行後、利用者や地域のニーズ、事業所の現状に合った理念とはなっていない。	○	現状に合った地域密着型サービスの理念について検討し、事業所独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員が事業所の現状に合った理念についての話し合いがなされていない。	○	地域密着型サービスの理念について、ミーティング等で職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図る取り組みを行ってほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の体験学習の受け入れやボランティアの来訪、近隣からの野菜の差し入れなど地域との交流がある。		地域住民の一員として町会、自治会等に参加するなど更なる積極的な取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて、全職員を交えての話し合いや全員での自己評価の取り組みは十分にはできなかった。	○	評価の意義とねらいについて、運営者、管理者及び全職員で話し合い、自己評価の積極的な取り組みをお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーからの意見や要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。又、家族にもメンバーとして参加してもらえるよう働きかけている。		サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みや運営推進会議のメンバーに自治会関係者参加の働きかけも期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者や地域包括支援センターに対し、ホームを理解・支援してもらい働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には必ず声をかけ、利用者の近況報告を行っている。又、定期的にホーム便りの発行を計画中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出された意見や苦情に対しては、課題を検討し、質の向上を目指す取り組みをしている。	○	家族等が意見や苦情を安心して表せる機会の場合としての家族会を設けるなど更なる取り組みも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平時から、3ユニットの全職員を定期的に配置転換することにより、利用者と職員の馴染みの関係ができていますので、仮に離職者があっても利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修受講の機会が少ない。	○	職員各自に応じた研修の機会が得られるように、年間計画の中で研修を位置づけていく運営面での工夫や、全職員が共有できるよう研修内容を報告する機会を作してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小林西諸管内同業者との交換研修での交流を通じて、事業所外の職員の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族を見学に来てもらったり、体験宿泊や本人のご自宅を訪問するなどして本人が安心して利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との会話などから生活の技や世間の常識など社会性を教えてもらう場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の訪問時に本人を交えて、本人のこれまでの話を昔ばなし的に聴きながら、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日ごろの関わりの中で、本人や家族の意向を聴き、全職員の意見を出し合って介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりに必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画となつてはいるが、介護計画の見直し期間が6カ月となっている。又、変化がない場合の継続についても見直しがされたことの記述が無い。	○	利用者の状態が安定しているような場合でも、月に1回程度は、本人や家族の今の意向や状況を確認しながら実情に即して介護計画の見直しを行なってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、自宅で暮らす認知症の人にショートステイが利用できる体制がある。又、利用者がお盆や正月には外泊できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、これまでのかかりつけ医を基本としつつ、本人と家族の同意を得て併設の医院での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、「看取りに関する指針」により本人や家族の同意を得ており、併設の医院との連携を密にして支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについて取り決めがあり、すべての職員が理解している。言葉使いなど接遇の研修があり、訪問中は本人を尊重した呼び方がされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課の過ごし方は、生活のリズムに配慮して柔軟に対応している。食事は本人のペースに合わせて柔軟に対応していた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は、職員は介助に主体が置かれていた。	○	利用者と職員と一緒に食事を楽しめる環境づくりを前向きに検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人に対しては清拭や足浴を行っている。又、3ユニットの入浴日がそれぞれ違った曜日に設定されているので、今日入浴されない場合は翌日に入浴してもらおうなど、利用者に合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くに在る卵自動販売所へ卵を買いに行ったり、遠出の外出など楽しみ事や気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイケアサービスに知人を訪ねたり、近隣への散歩や外食など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防署と連携を図りながら年2回の火災訓練を行っている。		事業所だけでの訓練ではなく、地域住民の参加や協力が得られるように更なる働きかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、併設医院の栄養士に専門的アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように採光や換気、季節の花を飾るなど日常的に注意を払いながら暮らしの場を整えている。	○	ユニットによっては、共有空間で利用者がゆったりとくつろいだり作業できるようスペースの確保や工夫を行ってほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みのものやご仏壇を持ち込まれているなど、本人や家族と相談しながら、その人らしく過ごせるよう工夫している。		